

カラマツ

四季の観察ポイント

春 かわいい花と新葉が展開する

雄花は下を向く

パイナップルのような雌花は上を向く

夏 丸みのあるまつぼっくりをつける

秋 葉は黄金色に黄葉し、まつぼっくりが熟す

冬 針葉樹だが落葉する

冬芽はらせん状につく



灰褐色で細長い縦の鱗状の樹皮



カラマツは日本に自生する針葉樹では珍しく冬に落葉する木です。北海道には自生していませんでしたが、明治13(1880)年に長野県から移入されたのが最初とされています。気候や土壌が合い、成長が速いことから明治30年頃には全道各地で大規模造林が行われました。

エゾヤチネズミによる樹皮食害を受けやすいため、食害抵抗性の高いグイマツとの間で品種改良が行われています。

春先の新葉の展開、秋の黄葉が美しく、目を楽ませてくれる木です。

リン子の絵日記

カラマツ

森全体がまつ黄色!

カラマツの黄葉はみごとだね



カラマツは明治13(1880)年に長野県から北海道へ移入されたのが最初とされている。

道内人工林の約3割がカラマツ林だよ

苗木の活着が良く、成長も早かったため全道各地で植林されカラマツ林が広がったんだ。

あつらくヨウキノコ発見!
本名ハナイグチだね。カラマツ林にしか出ないキノコだよ。

ハナイグチはカラマツから養分をもらう代わりに、無数に広げた菌糸で集めたリンや窒素、水分をカラマツに与えているよ。

本当の根の部分が膨らんでる!

キノコ(菌)と共生した菌根だ。お互い助け合って生きているんだ。

光合成産物

水やリン、窒素等



カラマツとくらしのつながり

カラマツの材は、若いうちはねじれ、節などの欠点が多いとされてきましたが、高齡木になるとこれらの欠点も少なくなり、重厚で強度もヒノキと同等以上になります。かつての大規模造林は、将来の炭鉱の坑木を確保する目的などで行われましたが、そのカラマツが利用に適した大きさまで成長した近年、新たな乾燥方法なども開発され、温かみのある色味とはっきりとした木目の美しさから、建築・内装材などとしての活用がひろがっています。

カラマツ林に発生するハナイグチは、通称「ラクヨウキノコ」と呼ばれ、ぬめりが多く、おみそ汁などに入れるととても美味しく、北海道民にとって最も身近な野生キノコの一つです。このキノコ(菌)はカラマツと共生して生きているため、人工栽培はできず、まさにカラマツ林のめぐみといえます。

裸足が心地いいカラマツのフローリング